

広報 しまだい

島根大学広報誌
Shimadai Magazine
November 2006
Vol. 3



「チョウザメ」剥製標本
(昭和初期、写真提供：ミュージアム)



「ニホンアシカ」剥製標本
(明治19年、写真提供：汽水域研究センター)



「隠岐馬」骨格標本 (明治21年、写真提供：汽水域研究センター)

■特集

- 大学憲章を制定
- ISO14001を取得
- 島根大学ミュージアムオープン

島根大学憲章を制定

広報
しまだい 3
Shimadai Magazine
November 2006
Vol. 3

CONTENTS

■トピックス

■特集

- 大学憲章を制定…………… 5
- ISO14001を取得…………… 6
- 島根大学ミュージアムオープン…………… 7

■連載

- 研究紹介…………… 9
- 公開講座紹介…………… 10
- 施設紹介…………… 11
- サークル紹介…………… 12
- ちょっとサイエンス…………… 13
- 学内散歩…………… 14

■同窓会から…………… 15

■お知らせ…………… 15

■編集後記…………… 15

島根大学では、本学の使命、管理運営上の基本方針及び養成する人材像等の目標を示すため、「島根大学憲章」を制定しました。

そして、広く内外に島根大学憲章を知ってもらうため、松江キャンパス正門に島根大学憲章の石碑を建立しました。また、出雲キャンパスの臨床講義棟前にも憲章碑を建立しました。島根大学は、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指しています。

憲章の全文は五ページの特集をご覧ください。



大学入試センター試験

隠岐試験場を開設

—平成一九年一月から—

島根大学では、平成一九年度大学入試センター試験から、隠岐の島に試験会場を設置して大学入試センター試験を実施することとしました。

試験実施については、大学入試センター（地区別（島根県）連絡会議で決定し、大学入試センター及び島根県教育委員会等関係機関と協議を重ねた結果、隠岐諸島地域住民の長年にわたる強い要望に応えるため、隠岐の島での

実施が決定されました。試験会場となるのは隠岐高等学校の予定で、受験者数は五〇人程度の見込みです。

全国で離島の試験場は、佐渡島、石垣島、宮古島、奄美大島の四箇所設置されており、隠岐の島は五箇所目の試験会場となるものです。また、五〇人程度が受験する隠岐の試験場は、「日本一小さな試験場」となるものです。

表紙
島根大学ミュージアム
展示資料



【チョウザメ】剥製標本（ミュージアム本館展示室）

チョウザメは、生きた化石と呼ばれるシーラカンスが生息していた時代（約3億年前）からの残存種で、うろこがチョウの形をしていることから名付けられた。魚肉や「キャビア」と呼ばれる卵は高級食材として珍重されている。普段は海で暮らし、卵を産むために川に上ってくるタイプの魚で、日本では、北海道や東北地方の沿岸でまれに見られるだけになってしまった。

本標本は、明治～昭和初期頃に美保関（現松江市美保関町）で捕獲されたといわれており、島根師範学校から本学教育学部に受け継がれてきたものである。当時は、美保関でしばしば捕獲されたらしく、学術的にもきわめて貴重な標本である。全体長1.6m。

【ニホンアシカ】剥製標本（山陰地域・汽水域資料展示室）

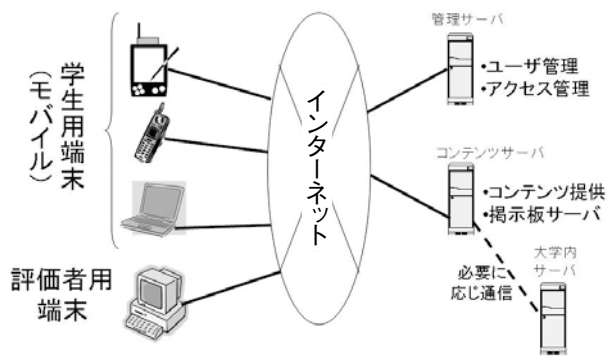
ニホンアシカ（アシカ科）は、江戸時代から明治時代にかけて大量に捕獲され、特に日本海の竹島周辺で毛皮や食用に大規模に捕獲された。1950年代以降、捕獲、目撃の記録がなく、絶滅したものと考えられている。ニホンアシカの剥製標本は国内では珍しく、国外でも、オランダ国立自然史博物館に江戸時代に来日したドイツ人医師シーボルトが持ち帰ったものが3点収蔵されているほか、大英博物館に毛皮標本1体と頭骨4点があるのみで、世界的にも非常に貴重な標本である。

本標本は、1886年（明治19年）2月に美保関町（現松江市美保関町）で捕獲されたもので、以来、島根師範学校に保管され、本学教育学部に受け継がれた。若い雄で体長1.2m。

【隠岐馬】骨格標本（山陰地域・汽水域資料展示室）

隠岐馬は、奇蹄目の日本馬の一種で、体高が低い隠岐在来の矮小馬である。1899年（明治39年）と1936年（昭和11年）の2回にわたる日本馬政局の馬政計画の実施により、雄はすべて去勢され絶滅した。この標本は、隠岐馬の骨格標本としては国内で唯一のものである。1888年（明治21年）3月、松江市にあった獣医学講習所において、家畜解剖学研究のため、獣医佐藤清明氏の手により解剖、組み立てられ、以来、島根師範学校、本学教育学部に受け継がれた。12才の雄馬で、生体の毛色は青、丈は1.18mであった。

システム概念図



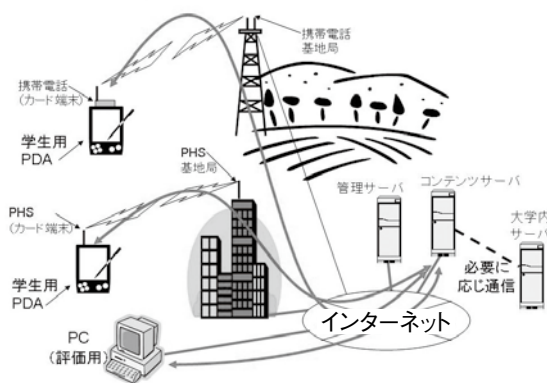
文部科学省現代GPに採択

文部科学省が公募した現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）の審査結果が発表され、本学医学部から申請した「地域医療教育遠隔支援e・ラーニングの開発―地域医療病院・保健管理センター―福祉施設実習における医学・看護学統合型e・ラーニングシステムの構築―」が採択されました。

これは、医学科・看護学科の最高学年の学生を対象に、離島や中山間地などのへき地を含む県内の地域医療病院や保健福祉施設と大学との間の双方向通信を活用した医学・看護学統合型e・ラーニング

グの教育モデルを構築するもので、これによって地域によるギャップを感じさせない教育効果を実現させ、地域医療教育を効率的かつ魅力あるものにするものです。そして、インターネットを用いることにより、教員への質問、レポート提出、情報検索などが随時どこからでも可能となり、教員から学生への連絡や課題の提示、指導も可能となります。学生は、医療機関や保健所等の端末又は携帯電話などの移動体通信を活用した小型端末（PDA等）を利用して、大学のサーバにアクセスして利用できます。また、看護教員が作成した教育サイトに医学生がアクセスし、在宅療養者や介護者へのケアの視点を学ぶことで患者本位の医療の本質を学習させるなど、医学と看護学を融合させた全人的医療人の育成を目指すものです。

通信概要図(学生用PDA・評価PCとサーバ間)



島根大学ミュージアムがオープン

平成一八年四月より、大学まるごとミュージアムをコンセプトにした「島根大学ミュージアム」が発足しました。このミュージアムは、本学構内（松江・出雲キャンパス、附属図書館、附属農場、演習林など）にある教育・研究資料などの展示収蔵施設・野外資料を包括したもので、これまでの膨大な研究成果、今後の研究展望などを一般市民に分かりやすく情報発信し、地域貢献に寄与することを目的に設置されました。（詳細は七ページの特集をご覧ください。）



JABEE技術者教育プログラムに認定

総合理工学部では、地球資源環境学科プログラム、コンピュータサイエンス専修プログラムに続き、二〇〇五年度に認定申請した電子制御システム工学科の技術者教育プログラムが、JABEE（日本技術者教育認定機構）の技術者教育プログラムとして認定されました。

技術者教育プログラムのJABEE認定により、電子制御システム工学科の卒業生は、修習技術者（技術士の第一次試験免除）の資格を得るとともに、国際的同等性のある技術者教育を修得したことが認められ、国際的に活躍する場が広がっていくこととなります。

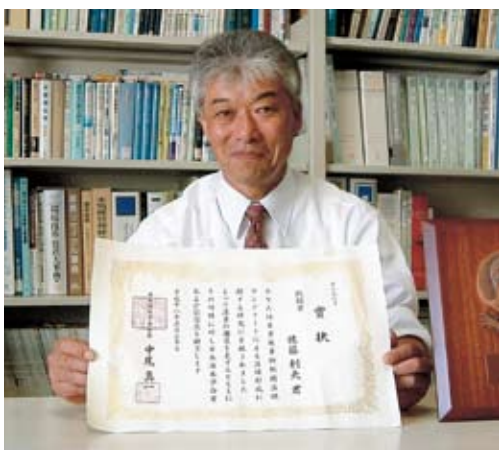


佐藤利夫教授が日本海 水学会技術賞を受賞

生物資源科学部の佐藤利夫教授が、「平成一八年度日本海水学会技術賞」を受賞しました。

日本海水学会技術賞は、塩および海水資源の利用や海洋・沿岸環境の保全に関する技術開発、発明考案、技術改良、技術指導に顕著な業績のあった者に贈られるもので、佐藤教授は、「産業廃棄物利用藻礁コンクリートによる藻場形成に関する研究」で受賞したものです。

佐藤教授は、「資源循環」をキーワードに、産業廃棄物を利用し顕著な生物易付着機能・藻場形成能を有するコンクリートを開発。基礎研究から実用化まで結びつけた長年にわたる研究が高く評価され、今回の受賞となりました。



岡本康昭教授が経済産 業大臣賞を受賞



総合理工学部の岡本康昭教授が、政府が行っている第四回産学官連携功労者表彰において、経済産業大臣賞を受賞しました。研究テーマは「サルファーフリー軽油製造のための高機能新規脱硫触媒の開発」。

この産学官連携功労者表彰は、大学の研究機関、企業等の産学官連携活動において大きな成果を収め、あるいは先導的な取組みを行う等、産学官連携の推進に多大な貢献をした優れた成功事例に関し、その功績を称えるもので、平成一五年度から毎年一回行われているものです。今回は、内閣総理大臣賞などの各賞

に全体で十一件が選ばれ、そのうちの経済産業大臣賞として受賞したものです。

花田英輔助教が産学官 連携功労者表彰を受賞

花田英輔医学部附属病院助教が、第六回中国地域産学官コラボレーション会議における「産学官連携功労者表彰」を受賞しました。

この表彰は、産学連携活動において大きな成果を収め、また、先導的な取組みを行う等、当該活動の推進に多大な貢献をした事例、もしくは将来期待できる事例に関し、その功績を顕彰するものです。



相撲同好会全国国公立 大会で好成績

島根大学の相撲同好会は、第二四回全国国公立大学対抗相撲大会において、団体戦準優勝、個人戦優勝を成し遂げました。個人戦は三連覇、団体戦は一昨年の優勝に続く好成績となりました。また、団体戦全勝者を表彰する敢闘賞では、本学の2名だけが受賞しました。大会は、全国から九大学が出場、本学は三年前から出場しています。

なお、部員の二名は、練習場所として使用させてもらっている朝酌小学校において、児童への指導も行っています。



学生表彰を実施

島根大学では、毎年前期と後期の二回、学業成績が優秀な学生、課外活動等で優秀な成績を収めた学生等を表彰しています。

平成一八年度前期は、課外活動において特に優秀な成績を収め、課外活動の振興に功績があったと認められる者又は団体について、次の個人、団体を表彰しました。

ギター部

水野 翼「銀賞」、丸山敬弘「銅賞」(第三回日本ギターコンクール大学生部門)

相撲同好会

団体準優勝
西村強志(個人戦優勝 敢闘賞)、藤木隆史(新人戦第四位)、三嶋祐康、諏合泰弘、藤田祐介(第二四回全国国公立大学対抗相撲大会)

医学部卓球部

古川 歩
男子個人第三位(第五八回西日本医科学総合体育大会)
女子団体準優勝

石橋朋佳、福富阿沙子、杉村直美、神徳桃子(第五八回西日本医科学総合体育大会)

医学部ソフトテニス部

女子団体第三位
日下あかり、熊田絵里、八戸由佳子、山田奈津子、上田沙矢香、佐久間亜季(第四〇回全日本医科学学生総合体育大会王座決定戦、第四六回全日本医科学学生ソフトテニス大会)

医学部陸上部

阿部哲郎
男子走高跳第二位(第五八回西日本医科学学生総合体育大会)
向田千夏
女子ハンマー投第一位、女子円盤投第二位、女子砲丸投第三位(第五八回西日本医科学学生総合体育大会)
荒木真理

女子千五百m第二位(第六五回全日本)

医歯薬獣医大学
対抗陸上競技選手権大会

医学部水泳部

江田大武
男子二百m自由形第三位、男子四百m自由形第三位(第五八回西日本医科学学生総合体育大会)

ラジオ番組の放送を開始

番組は、FM山陰の島根大学「タノシマネヴァ・シマネユニヴァ」。一〇月から毎週火曜日と水曜日の午後一〇時五五分から放送しています。

FM山陰のパーソナリティーに加え、島根大学の学生がパーソナリティーとなり、島根大学の魅力を紹介しています。

番組内容は、スポーツ・サークル活動など様々な面で活躍する学生を紹介するコーナー、インタビュー形式で大学の先生を紹介するコーナー、現代の疑問・問題などに島根大学の先生が専門的立場から解説するコーナー、さらに学生がキャンパスライフや街情報などを紹介するコーナーも展開していく予定です。島根大学の元気よさを感じてください。

松江市環境保全功労表彰を受賞

島根大学は、くにびきメッセで開催された「環境フェスティバル in 松江」において、「松江市環境保全功労賞」を受賞し、松江市長から表彰されました。

島根大学は、中・四国・九州の国立大学のなかで、複数学部からなるキャンパス単位ではじめてISO一四〇〇



チアダンスサークル結成

島根大学には応援団が不在となりましたが、このたびチアダンスサークルが結成され、様々な大会等で本学の学生を応援し、盛り上げてくれることになりました。

一を認証取得するなど、教職員・学生などが一体になって環境に配慮した活動に取り組んだ成果が評価されました。



島根大学憲章を制定

「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指して

島根大学憲章の制定については、学生代表も加わったグループを組織し、学内外から寄せられた意見も参考に検討を行い、本年4月に制定・発効しました。全文は以下のとおりです。

今後は、この憲章をどのように教育・研究等に活かしていくかが重要となり、この憲章に基づいたアクションプランについて、役員会を中心に検討しているところです。

島根大学憲章

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。

この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

1. 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学は、深い教養に裏づけられた高い公共性・倫理性の涵養を教育の基礎に置き、現代社会を担う高度な専門性を身につけた人材の養成を行う。

島根大学は、学生が、山陰の豊かな自然、歴史と文化の中で、学修や関連する諸活動を通して積極的に社会に関わりながら、自ら主体的に学び、自律的人格として自己研鑽に努めるための環境を提供する。

2. 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

島根大学は、社会の多面的要請に応えうる多様な分野の研究を推進するとともに、分野間の融合による特色ある研究を強化し、国際的に通用する創造性豊かな研究拠点を構築する。

島根大学は、社会の要請に応え、地域課題に立脚した特色ある研究を推進する。

3. 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

島根大学は、教育・学修、研究、医療を通して学術研究の成果を広く社会に還元する。

島根大学は、市民と連携・協力して、地域社会に生起する諸課題の解決に努め、豊かな社会の発展に寄与する。

4. アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

島根大学は、地域における国際的な拠点大学として、アジアをはじめとする国際社会に広く目を向け、価値ある情報発信と学術・文化・人材の交流を推進することによって、国際社会の平和と発展に貢献する。

5. 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

島根大学は、真理探究の精神を尊び、学問の自由と人権を尊重するとともに、環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える。

島根大学は、学内外の意見を十分に反映させつつ透明性の高い、機動的な運営を行う。

特集2

ISO14001を認証取得

—— 中国・四国・九州地区国立大学では初の取得、全国でも5番目 ——

島根大学では、松江キャンパスを対象範囲として、3月10日に環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。

国立大学において、複数学部を含むキャンパス単位でISO14001の認証を取得したのは、中国・四国・九州地区では初めてのことで、全国でも5番目のこととなります。

三月三日（木）に、登録証授与式を行い、授与式では、（財）日本品質保証機構（JQA）松野勉理事から、本田学長と学生代表に登録証が手渡されました。



松江キャンパスでは、平成一一年から構内美化や環境負荷の低減を目指すキャンパス環境キャンペーンの取り組みを行ってきましたが、国立大学法人化や京都議定書発効を機に、学生・教職員が一体となり環境問題への取り組みを始めました。

平成一六年度には、環境課題を六つのカテゴリに明確化して、その環境課題ごとに専門的立場から個別の環境側面を解析・評価し、問題解決を図るという独自の「環境マネジメントシステム」を構築してきました。その取組みが評価さ

れ、この度の認証取得となったものです。

本学では、今後のキャンパスにおいてもISO14001の認証を取得する予定にしており、平成一九年度末には全学に範囲を拡大することとしています。



●環境整備活動

6月5日の「環境の日」に学内一斉の清掃活動を行いました。120名を超える学生・教職員の参加がありました。



●駐輪指導

安全で快適なキャンパスづくりのため、規定駐輪場への駐輪指導、自転車登録の呼びかけ、傘さし運転の注意喚起などを行いました。



●放置自転車撤去活動

9月に学内の放置自転車の撤去活動を行いました。約60名の学生・教職員の参加があり、200台を超える自転車を回収しました。



●ランチタイム・ミニミーティング

環境問題について学生・教職員からの意見集約や議論の場として「ランチタイム・ミニミーティング」を開催しました。将来のキャンパス像のあり方など、様々な問題点や提案がありました。



●環境報告書の作成・公開

特集・3

OPEN

島根大学ミュージアム

島根大学は、明治8（1875）年開校の小学教員伝習所～師範学校や大正9（1920）年開校の旧制松江高等学校などをはじめとする前身校の歴史を含めると、約130年の長きにわたる伝統をもっています。

島根県や山陰地域は、個性ある遺跡・史跡や自然に恵まれたフィールドであり、本学では、永年、地域に根ざした様々な教育研究がなされてきました。

「島根大学ミュージアム」は、明治時代以来のこうした教育研究によって蓄積されてきた様々な学術標本資料などを公開活用する組織で、平成18年度から、学内外のご理解とご支援・熱意によって発足いたしました。

島根大学のいろいろな展示施設

「島根大学ミュージアム」は、キャンパスにある様々な施設・資料を「まるごとミュージアム」にしたものです。

これは、北欧やフランスなどで発達した「オープンエアミュージアム」・「エコミュージアム」の発想に習ったもので、地域全体を博物館としてとらえ、既存の資源・施設を有効活用しながら、新しい理念を注入して運営していく「ニューミュージアム」の概念です。

松江キャンパス

① 島根大学ミュージアム本館

島大まるごとミュージアムの「コア施設」で、展示のほか、総合案内、情報発信などを行っています。

キャンパスから出土した考古資料や昭和初期以前に美保関で捕獲されたチョウザメの標本、鳥類剥製標本などが展示してあります。

月々金・午前9時～午後5時開館



本館入口
(チョウザメがお待ちしています)

松江キャンパス





山陰地域・汽水域資料展示室
(貴重な標本がいっぱいです!)

②「総合理工学部」研究紹介コーナー

総合理工学部の教育研究内容や所蔵標本の一部が展示してあります。

③「古代出雲文化資料調査室」展示室

法文学部考古学研究室が所蔵する考古資料の一部を展示しています。

見学をご希望の方は、ミュージアム本館の職員に申しつけてください。

④「ミニ学術植物園「みりの小道」

生物資源科学部によって運営されている、くつろぎながら学べる植物園です。

⑤山陰地域・汽水域資料展示室

山陰地域・汽水域に関わる様々な分野の資料が総合展示してあります。

月～金・午前九時～午後四時開館。見学をご希望の方は、ミュージアム本館の職員が汽水域研究センター事務室の職員に申しつけてください。

⑥附属図書館本館

一般の蔵書のほか、膨大な量の古文書、絵図、貴重資料などがあります。入口を入って左側のミニ展示コーナーに一部が展示してあります。

⑦「菅田ヶ丘古墳」移築展示

月～金・午前八時三〇分～午後九時三〇分、土日祝休日・午前一〇時～午後五時三〇分開館。その他、期間によって開館日・時間の変更あり。

キャンパス内にあつた5世紀後半頃の古墳を移築したものです。

*すべて見学無料です。①②④⑥⑦は自由に見学できます。

*屋内施設は、年末年始(二月二九日～一月四日)・土日祝休日(附属図書館以外)閉館します。

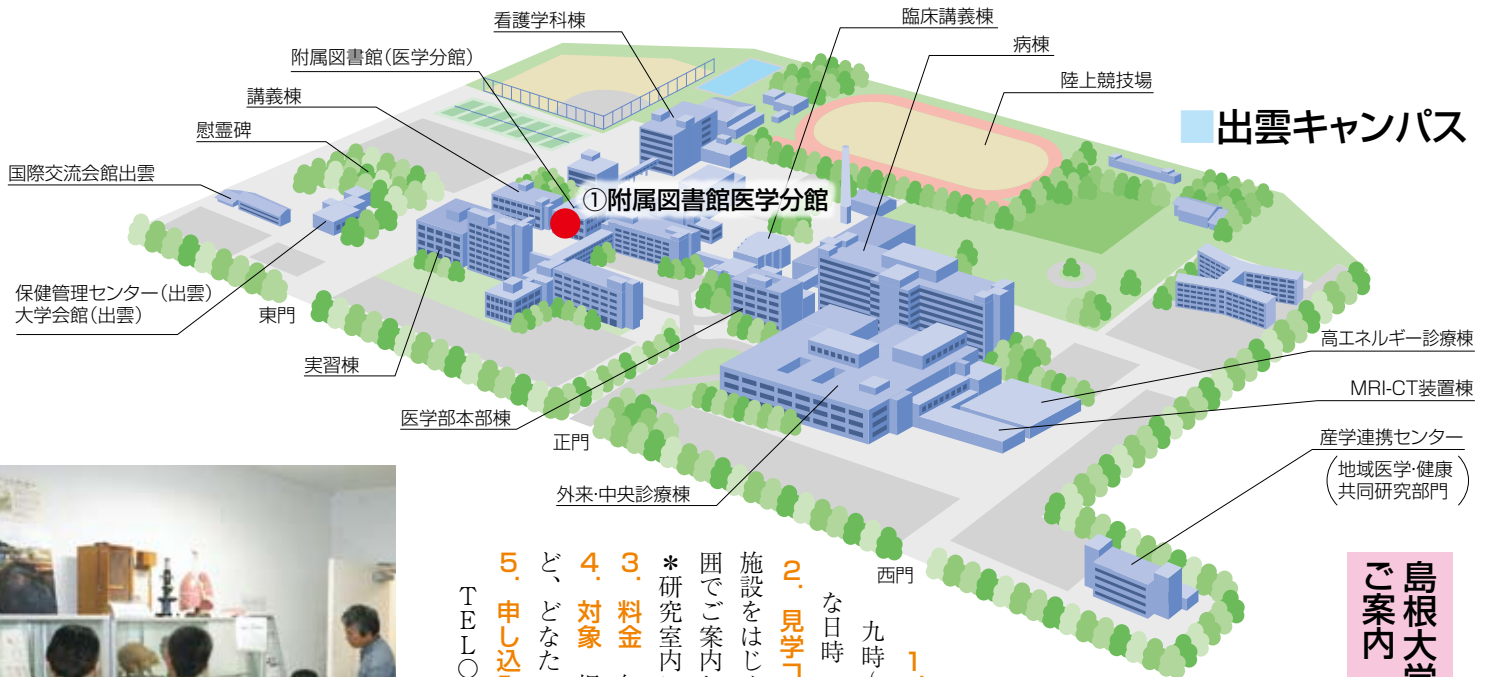
出雲キャンパス

①附属図書館医学分館

一般の蔵書のほか、古医書、明治以前の医療器具などがあります。このうち、医療器具や解説パネルなどが、一階入口や二階閲覧室前廊下の展示コーナーで一般公開されています。

*二〇〇五年一〇月実施の大森文庫講演会を、館内でDVD視聴できます。

月～金・午前九時～午後八時、土日祝休日・午前一〇時～午後四時開館。年末年始(二月二八日～一月四日)、そのほか分館長が必要と認めた日は閉館。



出雲キャンパス

鳥根大学キャンパスツアーのご案内

鳥根大学ミュージアムでは、松江キャンパス内の展示施設をめぐる、ウォーキングツアーを実施しています。ツアーコンダクター(大学ミュージアム教職員)が、各施設をご案内いたします。

事前に、希望日時・参加人数をご連絡ください。

1. 実施日時 月～金・午前九時～午後四時のうち、対応可能な日時(詳細は、ご相談ください。)

2. 見学コース キャンパス内の展示施設をはじめ、校舎の中なども可能な範囲でご案内します。
*研究室内には入れません。

3. 料金 無料

4. 対象 児童・学生・保護者・市民など、どなたでもご参加いただけます。

5. 申し込み・お問い合わせ

TEL〇八五二一三二一六四九六
(鳥根大学ミュージアム)



ツアーでの見学風景
(大学って、こんな所なのか...)

研究紹介

斐伊川の水質と流域の変化

ご存知のように、島根県東部に位置する宍道湖・中海は、二〇〇五年十一月にアフリカ・ウガンダで開催された第九回締約国会議でラムサール条約に同時登録され、これらの水域の「賢明な利用」が重要なテーマとなっていました。これらの湖に流入する最大の河川は斐伊川ですが、宍道湖に流入する淡水の約三／四は斐伊川の水と言われています。

私は現在、宍道湖・中海の周辺の流域を対象として、水質や水文学（降水量や河川流量）に関する研究を行っています。上述の斐伊川でも、窒素やリンなどの水質調査を一九九一年より継続していますが、明確な水質改善がみられないのが現状です。

また、宍道湖・中海の水質も、近年はほぼ横ばいで、環境基準をクリアしたことがありません。日本の人口密度は一平方キロメートル当たり三四二人ですが、斐伊川流域では約七二人です。また、斐伊川流域では、この一〇年くらいに約三、七〇〇人の人口減少があるほか、多くの地方で問題となりつつある過疎化・高齢化現象がみられ

ます。下水道などの生活排水対策については明確な進捗がみられますが、斐伊川や宍道湖・中海の水質改善がみられないのはなぜでしょうか？

この原因の一つとして、流域の約八割を占める山林や農地において、栄養分の多い土壌が流出しやすくなっていることがあるのではないかと考えています。

たとえば、日本の山林の約四割を占める針葉樹人工林では、間伐をされないうちで林の中が暗くなつたところが多く見られるようになってきました。このようなところでは、地表面が露出してしまいますので、ひとたび大きな雨が降りますと、豊かな土壌が流出するばかりか、土砂崩れなどの災害も懸念されます。

流域を対象としたこのような研究では、たとえば雨の多い年と少ない年では得られる結果が大きく異なるなど、短期間で研究成果が出ていくことが難点ですが、地道に続けていくことが重要であろうと思っています。

（生物資源科学部

地域開発科学科 武田育郎）



針葉樹人工林の試験流域と水文観測施設

公開講座 紹介

地域とともに

島根大学では、地域とともに歩む大学、地域に開かれた大学を目指し、研究成果を地域の皆様に提供しています。

公開講座や大学開放事業で皆様の生涯学習のお手伝いをしていますので、参加してください。



「幻の西夏王国とシルクロードを訪ねて」

シルクロードの果たしてきた役割や意義を探る講座です。今年度は、島根大学の講義と生涯学習ツアーの他、寧夏大学の教員・学生の協力で、現地でも講義を受け、近隣遺跡の見学も実施しました。



こども硬式テニス教室

小学生を対象とし、硬式テニスを中心とした身体を使った遊びを通じて、スポーツに親しむ場を提供しています。



農作業で旬を感じよう

本庄農場を会場にサクラ、お茶、トマト、サツマイモ、柿などの栽培作業をしながら、家庭で農作物を育て、楽しむための知識を得ていただく講座として開講しました。



里山を楽しむ～冬の竹林の手入れ～

里山の成り立ちや人とのかかわりを学習する「楽しさ」、竹林がきれいに整備されていく「楽しさ」、里山の中で仕事する「楽しさ」、竹を利用する「楽しさ」を体験しました。



「みのりの小道」の緑化活動

生物資源科学部棟周辺にブルーベリーやツツジ、ボタン等を植え付け、ミニ学術植物園「みのりの小道」を作っています。地域住民の皆様にも積極的に参加していただいています。



硬式テニス教室 上級

他では実施困難な上級者を対象とした講座で、硬式テニスの最新の情報と技術向上の場を提供しています。

施設紹介

生物資源科学部 附属生物資源教育研究センター

センターの目的

生物資源科学部附属生物資源教育研究センターは、「森林」・「耕地」・「海洋」を総合的に捉えた実践的教育研究を行い、生物資源枯渇への対応、環境破壊への対応について教育・研究する施設として、人と生物の共生・共存を目指しています。

地域との関わり

当センターでは、地域の方々にセンターの中身を知っていただくために各種の事業を開催しています。

生産品販売

六月から十二月の第一土曜日に「土曜日市」を開催

【主な品目】

煎茶、番茶、トマトジュース、ジャム（イチゴ、ブルーベリー、リンゴ、ユズ）、米、サツマイモ、トマト、ぶどう、柿、キウイなど

●センターフェスティバル

四月 春の農場まつり
十一月 秋の農場まつり

●公開講座

体験型やフィールドを利用しての各種講座を広く一般向けに開催しています。



●森林科学部門

森の恵みと人の営みの調和

森林の生産力を持続的に、最大限に発揮させることを目的に、林学・林産学に関する教育・研究を行うとともに、流域生態系の上流部に位置する森林の自然環境の保全に関する教育・研究を展開しています。

●フィールド

三瓶演習林、匹見演習林、松江試験地

●農業生産科学部門

人類の生存と生活環境を守る

|| みどりの大地 ||

「生産性の向上」と「よりよい自然環境の創出」を一体的な課題として捉



●海洋生物科学部門

海洋生物科学教育・研究の拠点

海洋生物科学の基礎的な教育・研究とともに、基礎を踏まえた応用海洋生物科学の実証的・実践的な教育・研究を行っています。

●フィールド

隠岐臨海実験所（隠岐の島町）



えた科学と技術の教育・研究をフィールドを中心として行っています。

●フィールド

本庄総合農場、神西砂丘農場

サークル紹介



農園クラブ

自然とのふれあい、地域の方との交流を大切に活動しています。



こんにちは、私たちは、島根大学医学部の農園クラブです。私たち農園クラブは、医学科・看護科の学生二〇名が所属しており、稗原で畑を借りて活動しています。活動内容は、一年中、畑仕事をするのももちろん、季節ごとに様々な活動を行っています。春は、田植え・たけのこ掘り、夏は、稲の管理、秋は、稲刈り・そば作り、冬は、

そば打ち・炭作り・しいたけの菌打ちなど、稗原の方と楽しんでいきます。私たちは、自然とのふれ合い、医学科と看護科の交流、稗原地域の方とのふれ合いを大切に活動しています。畑からは、虫や雑草、季節の移り変わり、稗原地域の方からは、出雲地方の歴史や、野菜の育て方など沢山の事を教えて頂いております。講義から学ぶことのできないことを、沢山学ぶことのできる部活動で、みんな大満足です。（医学科5年 花谷 崇）



吹奏楽部

音楽好きのあなた、コンサートを聞きに来て下さい。

私たち吹奏楽部は、毎週月・水・土を中心に活動を行っています。年間を通しての主な活動は、夏にサマーコンサートを、十二月に定期演奏会を、それぞれプラバホールで行っています。また、カラコロ工房など、様々な施設を訪問して演奏をしたり、積極的に外に出て地域の皆さんとふれあいを持って活動しています。

演奏しています。この「広報しまだい」を読まれたその音楽好きのあなた。今年是非、私たちが行う夏・冬のコンサートに足を運んでみてください。あなたのご来場を、部員一同、心よりお待ちしております。

訪問演奏の依頼をいただければ、部員一同はりきって伺わせていただきます。（日程等が合わず、お受けできない場合もあります。）

吹奏楽は、皆さんにあまりなじみのないかもしれませんが、部員全員で一つの音楽を作りあげていくのは、難しいですが、とても楽しいです。とても素敵な音楽ですよ。

私たちの演奏を聞きに来てくださったお客様のために、未熟ながら、心を込め



（生物資源科学部 3年 牛尾康二）

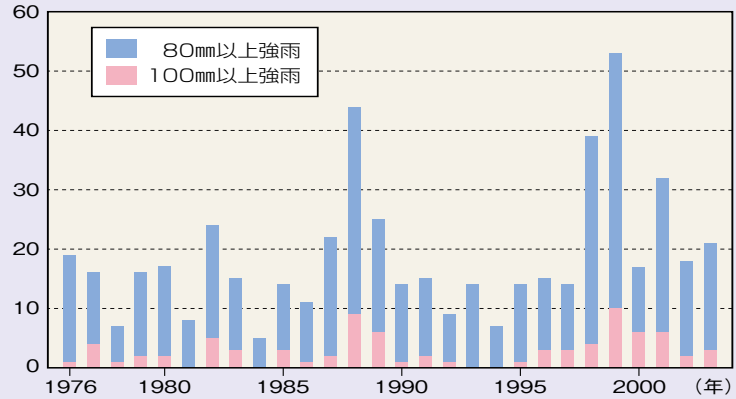
環境に関する研究紹介①

短時間強雨の発生に関する研究

近頃、一時間に数十mmという強い雨が降り、都市部で下水からの逆流による局地的な氾濫が起きたり、山間部で土砂崩れが発生することがよくあります。影響を受ける人が多い東京やその周辺でそのような雨が降ると、テレビや新聞などで取り上げられますので、気になっている方もいると思います。また、地球温暖化に伴いそのような強い雨が近年増えていると理解している方もいると思います。

雨量は降った雨が地面にしみ込んだり川に流れたりすることなく、そのまま貯まったとしてその深さで表しますが、一時間に三〇mm、五〇mmの雨といわれても、どのような状況なのか思い浮かべるのは難しいものです。気象庁が作成した雨の強さと人の感覚や災害の状況などとの関係をまとめたものをみると、一時間に三〇mm以上でバケツをひっくり返したように降り、山崩れ、崖崩れが起きやすく、都市部では下水管から水があふれるようになる。五〇mm以上では滝のように降り、都市部では地下水や地下街に雨水が流れ込む場合があるとされています。そして、このような雨を「激しい雨」、「非常に激しい雨」と表現しています。さらに、一時間に八〇mm以上の「猛烈な雨」は息苦しくなるような圧迫感があり、恐

年間発生回数



短時間強雨の年間発生回数

怖心を感じるとともに、大災害の発生する恐れがあります。

私の研究は災害を引き起こす恐れのある一時間に三〇mm以上の激しい雨（短時間強雨）を対象として、発生頻度の年々変化、季節変化をみるとともに、多発地域の特徴（地域性や地形条件）を明らかにすることを目指しています。図は一時間八〇mm以上、一〇〇mm以上の猛烈な雨に限って、発生頻度の年々変化を示したものです。これを見ると、一九八〇年代後半や一九九〇年代後半には猛烈な雨が多発する一方、その間の期間は強雨が発生しにくかったことがわかります。はじめに、短時間強雨が近年増えているという考えがあると書きましたが、単純に増えているのではないことがわかります。このような変動の原因はまだ明らかではありませんが、それを考えていくのも私の研究の目的です。

（法文学部 田坂郁夫）

旧外国人宿舎

松江市奥谷町にある島根大学の職員宿舎は、旧制松江高等学校時代に外国人宿舎として建てられたものです。当時は二棟立てられていましたが、現存するのは

現在の一枚のみとなっています。

この宿舎は、大正一三年に建てられたもので、近年では職員宿舎として使用していましたが、老朽化に伴い、八年前か

ら空き家となっていました。

島根大学では、山陰では珍しい大正時代の西洋式住宅で歴史的建造物としての価値があり、また、この宿舎は、ドイツ人のフリッツ・カルシュ博士が松江での一六六年間を過ごした建物であることから、博士の松江での足跡を偲ぶ記念的建物としての価値も高く、保存す

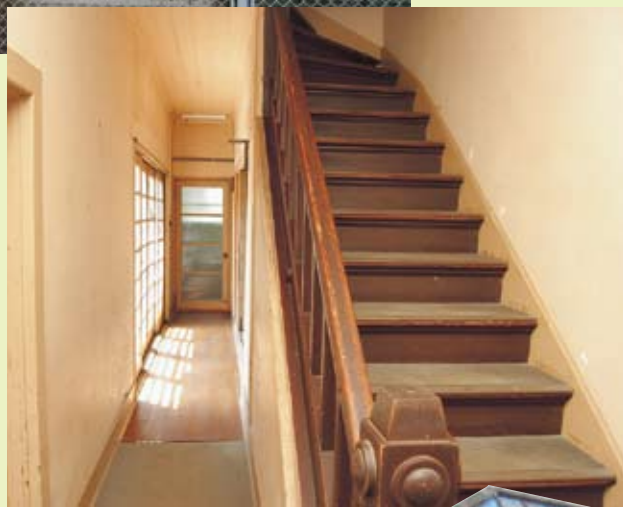
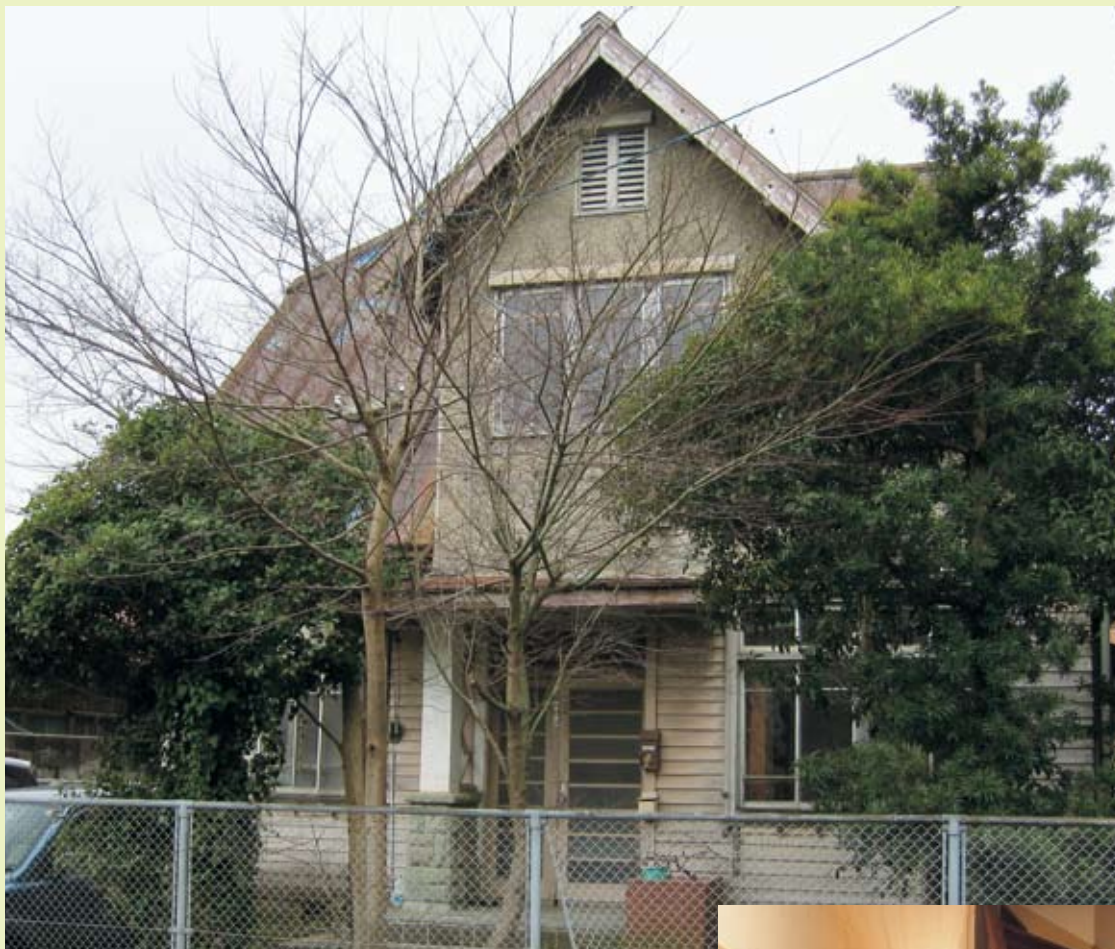


学内散歩

ることを決定しました。
 そして、国の登録有形文化財への申請
 手続きを行い、保存に向けて活用法など
 を検討しています。

なお、島根大学では、OBや地元企業

などに修復に必要な資金の援助
 を呼びかけることとしていま
 す。



建物内部の様子



フリッツ・カルシュ博士

ドイツ語教師のフリッツ・カルシュ
 は、ラフカディオ・ハーンの著書に影
 響を受けて、大正一四年に旧制松江高

日本に残し、松江やその周辺の風景を
 描き写した絵画や写真も多数残してい
 ます。

等学校に赴任し、昭和一四
 年までの一六年間この宿舎
 に住み、二人の子どもに恵
 まれました。

こよなく日本を愛したカ
 ルシュ博士は、松江時代に
 ドイツ語や哲学を教え、長
 崎で被爆者医療に尽くした
 永井隆博士ら数々の人材を
 育てたほか、ラフカディオ
 オ・ハーンに劣らぬ足跡を

同窓会から

同窓会連合会事務室を設置

島根大学同窓会連合会は、このほど附属図書館（松江キャンパス本館）一階に同窓会連合会事務室を設置しました。本田学長（連合会顧問）、山本理事（連合会代表幹事）、江原理事（連合会評議員）が、関係職員とともに同窓会連合会の看板を上掲し、本格的に活動することとなりました。



看板を掲げる（左から）山本理事、本田学長、江原理事

同窓会連合会のホームページを開設

同窓会連合会では、このたびホームページを開設しました。同窓会連合会の事業案内等について随時お知らせすることとしています。また、各学部同窓会のホームページともリンクしていますので、一度ご覧ください。

▼ホームページアドレス
<http://www.suaashimane-u.ac.jp>

法文学部同窓会ブロック総会を開催

法文学部同窓会では、平成一六年九月の全国総会の成功をきっかけとして、この度、平成一八年九月一六日（土）に、同窓会ブロック総会を開催しました。

今回のブロック総会は、同窓生相互の親睦を深めることを基本にしながら、加えて、同窓生と現役学生が「就職・職業」をテーマに情報交換、交流を行った点が特徴としてあげられます。今後につながる人的なネットワークづくりのきっかけになることが期待され、国立大学法人として様々な改革に取り組み島根大学と、同窓会が連携して取り組んだものです。

当日は、約一〇〇名が参加（概ね同窓生五割、学生三割、教職員二割の参加割合でした）し、総会、分科会（六つに分かれて実施①法曹分野②マスコミ分野③公務分野④金融・保険・証券分野⑤商社・メーカー、小売その他分野⑥職業を考える分野）並びに交流会が開催されました。

同窓会と大学の連携の取組として、現役学生に対する「就職支援」をテーマに企画した今回の取組が、その実践、反省を通じて、さらに有意義なものと発展していくことを願っています。

なお、総会の開催準備等での関係者の皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。

（法文学部同窓会 吉山 治氏より）

お知らせ

平成18年12月以降の予定

■主な行事予定

- 12月23日：冬季休業開始
- 1月20日・21日：大学入試センター試験
- 2月25日・26日：前期日程入学試験
- 3月12日後期日程入学試験
- 3月22日：学位授与式（出雲）
- 3月23日：学位授与式（松江）

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々の相互理解を大きな目的としています。学内から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々の島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などお気軽にお寄せ下さい。ご投稿をお待ちしています。

投稿先 〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学総務部総務課あて
Fax:0852-32-6019
E-mail:jsy-bunshyo@in.shimane-u.ac.jp
ホームページ
<http://www.shimane-u.ac.jp>

編集後記

この夏から始まった編集作業が秋を過ぎ、とうとう冬を迎えてしまいました。新聞や雑誌などの定期刊行物を発行しているところは極めて緻密で迅速なシステムが構築されているのだからと改めて感心させられた次第です。

ところで、大きな組織やシステムになるほど情報の共有や認識の統一を図ることは困難となりますが、必ずしも統制がとれ整然としたシステムが優れているわけではないことも興味深いところです。生物や進化のシステムでは同じような特性の集団よりも少し異なるものを含んだ集団の方が最終的に目的を早く達成したり、効率的であったりすることが知られています。多様性が高いほど取り巻く環境の変化に対しての柔軟性が高いことをご存じの方も多いことでしょう。

レイアウトや校正のため寄せられた記事を読んでおきますと、学内にこんな施設があったのか、こんな研究もされていたのか、皆さん様々な分野で活躍されているな、とこれまでの自分の世界とは別の多様な世界に興味津々となりました。新分野の開拓には異分野との交流または視点の転換が重要といわれるのもうなずけるところです。広報しまだい、をお読みいただいた地域の皆さんが島大に興味をお持ちいただいたり、様々な分野で交流できたりして、地域の活性化の新たな展開につながることに幸甚です。

（生物資源科学部・土肥 誠）